



昨年のEmbedded Technology 2018、IoT Technology 2018では、スタートアップ・グローバルフォーラムを立ち上げました。

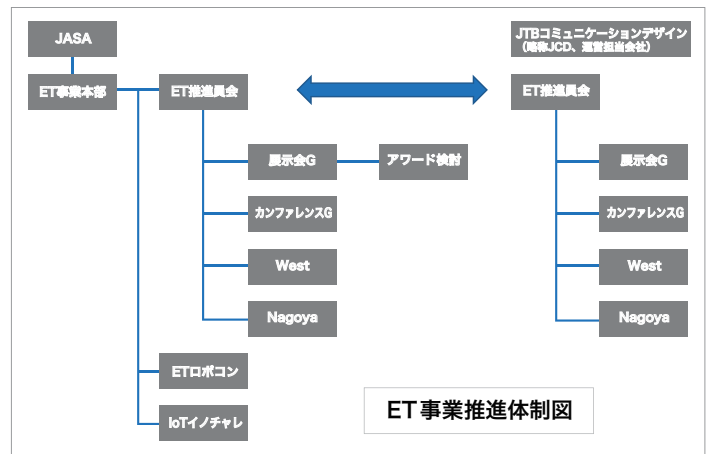
スタートアップ企業にとって、お金集めは社長の9割以上の仕事となっています。最近では、米国、欧州、イスラエル、中国、日本などに投資資金が集まり、皆さん儲かる商売を探している中で、投資家向けの説明会(ピッチイベント)は、日本でも、盛んにおこなわれています。投資家しか入れませんし、内容も秘密事項が多いので、見る機会は少ないと思います。現在は、第4次産業革命で、いい製品を作れば売れる時代は終わり、前回ご紹介したハードウェア委員会でも、今までの請負体質から提案型ビジネスの創生で新しいセミナーなどの施行を開始しました。

ピッチイベントを見てみますと、投資家向けのもの、業界のアライアンス構築向け、さらには、顧客向けと、いくつかのバリエーションがあるようですが、日本では、投資家向けが中心です。

Embedded Technology 2019、IoT Technology 2019では、業界のアライアンス構築向けのピッチを実施して、新しい事業の創生を狙います。彼らの中から、大企業、グローバル企業に成長する企業が生まれるのも近い将来です。第3、4回目は、2019年Embedded Technology 2019、IoT Technology 2019に向けて新しいチャレンジを推進するET事業本部と委員会をご紹介いたします。

ET事業本部の本部長渡辺様は、自社を昨年上場させ、親会社の取締役にも着任し、自動車業界からも、一目置かれている人物で、JASAの最大の事業であるEmbedded Technology、IoT Technologyのリーダーとして活躍していただいています。

5月ごろには、方針が決定され、プレス発表、ポスターが作成されますが、そのあとに、他社の大きな展示会が実施されるわけですから、トレンドの見誤りがあつたら笑いものです。本当に真剣勝負です。ET×ETを決定するときも、世の中ではクラウド一色の時で、発表後、エッジは重要だと叫ばれるようになりました。



ET事業推進体制図



ET事業本部 事業部長
渡辺 博之氏

株エクスモーション代表取締役

JASA理事、ET事業本部長、組込みIoTモデリングWG主査

ETロボコンの創成期から技術委員長として、ボランティアで若い人間の育成に努めてきました。

●運営にあたっての意気込み

JASAの主催事業であるET/IoT展を、第4次産業革命の担い手として期待が高まっているエッジテクノロジー総合展としてより大きく飛躍させ、ET業界をけん引するイベントにしていきたい。

ET事業推進本部は、JASAの1本の柱をより太く、より大きくしていただいている重要な部隊のまとめの組織です。渡辺様を筆頭に、副会長、各委員会の委員長が集まり、1年間の方針、展示トレンドの議論をして、決定していきます。

推進委員会(兼) 渡辺 博之氏

●運営にあたっての意気込み

エッジテクノロジー総合展としてのブランド確立と、魅力度アップする展示会の構成作りに注力したい。

本部と、ET実行にかかわるリーダーと運営会社のJCDが集まって、個々の方針、課題などを議論し、マイルストーンをチェック運営しています。

昨年は、スタートアップ企業、グローバル企業のコーナーを立ち上げるために、手分けして、ピッチイベントに参加、大使館巡りなどを実施しました。

皆さん時間のなか、精力的に動いていただき、元気あるコーナーを作ることができました。ありがとうございます。



安藤 巨氏

イーエルシステム(株)で組込システム開発、IoTの営業を担当。ETWest第一回目から実行委員として参加。

●運営にあたっての意気込み

ETの地方展開も含めて、展示会を通じて出展社・来場者が活性化できるよう、団体・コミュニティ・地域等が連携していけるように活動していきたいと思います。

安藤様は、近畿代表という立場で、ET Westの代表という面もお持ちです。年間のトレンドを決定して、West、Nagoyaと実施していくとき、やはり、ET事業本部へ、物申す方が必要で、貴重な存在です。

一見、もの静かなのですが、ビシッと意見を言われたり、経産局との窓口なども実施され、気配りもできる頼もしい存在です。



**展示会WG リーダー
富岡 理氏**

ユークエスト(株) 営業部長。この年代では珍しい「技術を知らない組込み屋」。ETFフェスタでは自作の燻製が評判。

●運営にあたっての意気込み

展示会は出展社にとってビジネスの場であるとともに、主催者の情報発信と自己主張の場でもあります。

JASAならではの視点でテクノロジーの未来を切り取り、来場者がまた来たいと思ってくれる場を目指します。

広報委員長でもある富岡様は、ここでもムードメーカーです。

多くの展示会を見て、出展して、その経験から、展示かのあるべき論をお持ちで、そこに、本来のユーモラスと、イケイケどんどんの前向きな姿勢が、皆様をいい感じで、リードしています。展示会の配置は、人の流れを作り上げるわけで、出展社の満足度の大きなポイントです。出展社にとって、来場者が多く、また、立ち止まってくれる場所が最高で、そのポイントをいかに多く作り出すか。また、見学している中で、メリハリのある展示レイアウトを実施しないと、来場者が目的とする技術、展示物が探せないようになります。

なか日のETFフェスタは、日本では唯一、展示会場で飲み会が実施されます。本来、ボジョレヌーボの日に合わせて展示会を開催しています。地元の特産品などを食しながら、来場者が足を止めてくれて、情報交

換ができれば、それは、大変いいチャンスが生まれる可能性が大きい。

東北ブースは、毎年、東京で手に入らないような日本酒を用意していただくので、開催時間前の殺気立った来場者は怖い。また、なか日は最も来場者数が多いという珍しい展示会でもあります。

センターステージの使い方も難しく、特に朝のイベントによって、来場者数に差が出てくる。昨年は、3人のスペシャルトークセッションなど、今までにない規格で、ソーシャルネットワークの情報発信で、フォロワーなど今までにない方々が早朝から来場していただけたとか。新しい試みができました。



**カンファレンスWG
アワード検討
山田 敏行氏**

日新システムズで、事業企画を担当しています。「ものづくりから価値づくりへ」心折れることなくチャレンジを続けています！

●運営にあたっての意気込み

業界有識者の皆さんと共に、先端技術とビジネスモデルの2つの視点でカンファレンスの設計を進めています。

Dx、ブロックチェーンなど増え続けるキーワードに対応した、2019年のETFカンファレンスにご期待ください！

目玉のWGである。半導体、ソフトウェア、ハードウェア、SI、ツールなどの業界のリーダーに加えて、プレス、大学、協会等から約15名程度のアドバイザーをお願いして、時の講演者を検討して、講演プログラミングを作っていく。基調講演は1000名以上の聴講者を集めるので、人選には大変苦労する。通常、金を積んで有名人を集めればよいであろうが、ここは、業界のカンファレ

ンスなので、謝金は微々たるもの、ボランティア精神に訴えて、講演をお願いしている。WGのメンバー、講演者、アドバイザーの方々には感謝感謝です。

これらの、業界のトップメンバーをまとめる山田様は、とにかく勉強家です。海外も含めて、展示会、講演会に積極的に参加して、ご自身の業務にも生かされながら、素晴らしいバランスセンスで、WGを進めています。これらの経験から、トレンドを意識した、アワード検討会の座長もお願いしています

**IoTイノベーションチャレンジ委員会
(兼) 渡辺 博之氏**

●運営にあたっての意気込み

これからの時代は、ビジネスとエンジニアリングを一緒に考えることの出来るエンジニアが必要だが、現場の仕事をこなすだけでは、なかなかそこにたどりつけない。このコンテストを通じて、エンジニアがビジネスを考えるきっかけになればうれしい。

昨年第1回を実施した、イノチャレです。

オープンイノベーションなど、グローバルなビジネスが進む中、いい製品を作れば、儲かる言った時代は終わり、協業ができる人財、会社が望まれる時代になってきた。こんな中で、MBSEなど効率よくビジネスをモデルとして、ビジネスモデルを作れる人財育成が大変重要であり、注目されています。

イノチャレでは、一流の専門家、それもボランティアなのですが、講習会を実施し、実習をして、一通り教育を実施したのちに、ビジネスモデルを作ってもらい、その自分のアイデアとビジネスモデルをプレゼンして、競う。第2のETロボコンとして、人財育成に新しい流れを作っています。

若手の育成、特にビジネスモデルの作れる人財は、次期経営者としても重要で、ぜひ、皆様参加してください。 <続く>